□9月24日　主日礼拝説教短縮版（隅野瞳師）
「神の人よ、追い求めなさい」（Ⅰテモテ6:2c～12）

エフェソの教会に、信心をこの世の利得の道とする教えが入り込みました。しかしパウロは信心…神を畏れ敬って生きる人の生涯には、まったく質の違う大きな利得がもたらされると語ります。信心は御父に対して御子が示された、信頼と献身の生き方です。神を畏れて生きる時、「満ち足りることを知る」者とされます。御子は十字架の死に至るまで貧しくなられ、私たちをまことに満たす永遠の命を与えて下さいました。何も持たずに生まれた私たちに、神はすべての必要を備え、私たちを愛し支えてくださる多くの方に出会わせてくださいました。私たちが世を去っても残るのは人に与えたもの、愛と福音です。良い行いに富み、喜んで分け与えましょう。

パウロはテモテを、モーセやダビデと同じ「神の人」と呼びかけます。テモテは弱さを抱えていましたが、教会を牧する特別な奉仕のために神から立てられたからです。すべてのクリスチャンもまた神の人であり、御言葉によって訓練され整えられます（Ⅱテモ3:16～17）。神の人は異なる教えを説く者たちのような生き方を避け、正義（神との関係において正しく生きること）、信心、信仰（神から差し出された手を受け取り、決断して神に従っていくこと）、愛、忍耐（救いの約束の実現を待ち望んで生きること）、柔和（神がご存じであるという確信があり、人と言い争う必要がないこと）を追い求めなさいと命じられています。「神の人」として福音を分かち合い、神がしてくださったことを証しましょう。私たちがみ跡を追い求めるとともに、次の神の人をあたたかく見守り、育てることも大切です（Ⅱテモ2:2）。

信仰は最後まで走り抜く戦いです（ヘブ12:1～2）。恵みによって備えられている永遠の命を得るまでには、その歩みを妨げようとする力との戦いがあります。しかし神は私たちを救いのうちに捕えて、絶対にその手を離すことはなさいません（フィリ3:12）。その恵みと愛を知るならば、私たちは全身全霊で神のもとに走っていく…神に喜ばれる者に造り変えられたいと願わずにはいられません。御父の真実と約束により頼み、私自身、そして私に委ねられた方々が信仰の道を走り抜くことができるように祈り、仕えてまいりましょう。
（終）